

福島県及び周辺地域における放射性物質モニタリング (公共用水域)



【実施範囲】

福島県、宮城県、茨城県、
栃木県、群馬県の全域及び
岩手県、千葉県等の一部

【測定地点】

602地点

【核種分析】

<試料>

水質、底質、
周辺環境（土壌）

<対象核種>

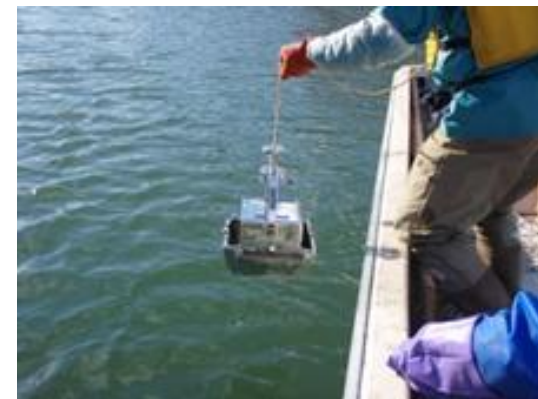
放射性セシウム
放射性ストロンチウム
（一部水質、底質）等

【頻度】

汚染状況等に応じて、
年に2～10回の頻度で調査。



(河川・水質)



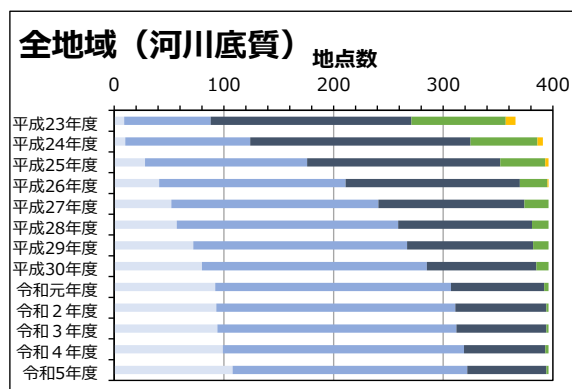
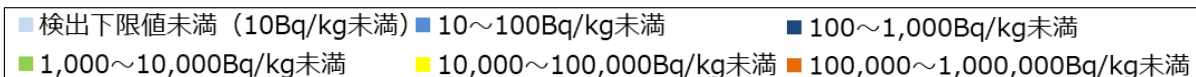
(湖沼・底質)

環境省 令和5年度公共用水域放射性物質モニタリング調査結果（まとめ）

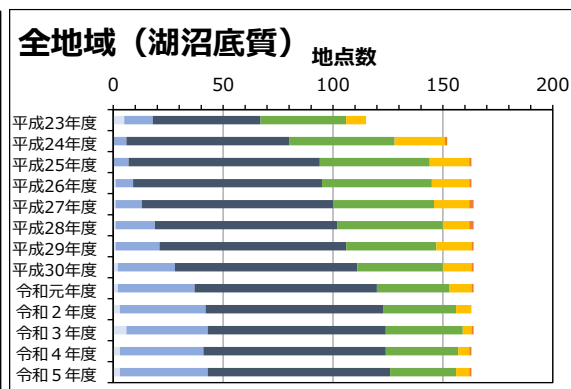
(https://www.env.go.jp/jishin/monitoring/results_r-pw-r05.html) より作成

底質の放射性セシウム濃度の調査結果

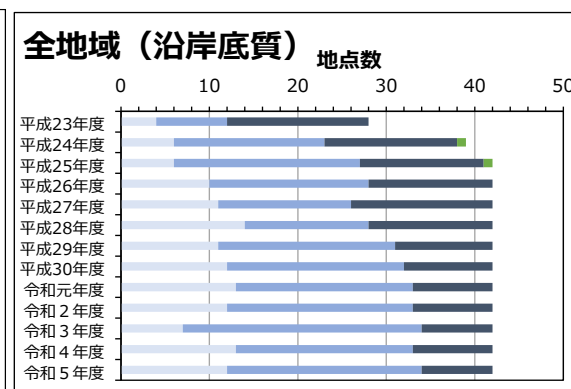
モニタリングを継続的に行っている地点のデータを用いて、以下の方法により地点別の濃度分布の推移を確認した。各地点における放射性セシウム(Cs-134とCs-137の合計値)の全調査結果を用いて、地点ごとに平均値(算術平均。検出下限値未満はゼロで算出。)を求め、全ての地点平均値を濃度別に6区分に整理した。



経年的には、高濃度区分が減少。令和5年度は、検出下限値未満が108地点(27.3%)、10以上100Bq/kg未満が214地点(54.0%)、100以上1,000Bq/kg未満が72地点(18.2%)であり、**100Bq/kg未満の地点が全体の約81%を占めていた。**



経年的には、高濃度区分が減少しているが、河川に比べ緩やか。令和5年度は、検出下限値未満が3地点(1.8%)、10以上100Bq/kg未満が40地点(24.5%)、100以上1,000Bq/kg未満が83地点(50.9%)であり、**1,000Bq/kg未満の地点が全体の約77%を占めていた。**



経年的には、高濃度区分はみられない。令和5年度は、検出下限値未満が12地点(29.3%)、10以上100Bq/kg未満が21地点(51.2%)、100以上1,000Bq/kg未満が8地点(19.5%)であり、**100Bq/kg未満の地点が全体の約80%を占めていた。**

令和6年度第2回水環境における放射性物質の常時監視に関する評価検討会(環境省)資料
(https://www.env.go.jp/air/rmcm/conf_cm2/r0611.html)より作成